

いよいよ夏本番、8月を迎えました。夏の風物詩の一つに蝉の鳴き声が挙げられます。

今年はその責の鳴き声をきくことが自然環境の要因なのか、例年より幾分少なくなっているように感じられます。

蝉は気象情感によって、また蝉の種類によって泣く時期や時間帯も様々だと家有れています。

日中の本当に暑い時間帯は蝉の鳴き声も極めて少なく、どうやら蝉も本能的に暑さを凌ぐ部を知っているようで、自然の節理の偉大さに驚きを禁じえません。

さて夏と言えば、四季の中で私の好きな季節の一つで、夏が来ると幼いころのことが懐かしく思い出されます。当時は、地域には川や空地や田んぼ等素朴な自然が身近にあり、人々の生活も今と違って決して豊かとは言えませんが、地域の人々は人情もあり、何より誰もが助け合い支えあいながら大らかに生活を営んでいたように思われます。夏休みには朝早くラジオ体操に参加し、そこで友だちと一日の遊びを約束し、近所の小川で魚釣りや神社

境内出の蝉取りや田畑でトンボを追いかけたり等日がな夢中で遊んでいたことが、今も懐かしく思い出されます。今となればそれらの体験は私にとって掛けがえのない大切な宝物だったと言えます。今はコロナ禍の時でもまた少子化の時であり、子どもたちが自由に地域で一緒に遊ぶことが極めて困難な時代と言えますが、せめて園に集う子どもたちが自由に伸び伸び、一日一日が楽しかったと思える、そのような環境づくりに精一杯取り組んでいきたいと考えます。

保護者の皆様にはこれまで当園の保育(コロナ禍対応含む)に温かいご理解・ご協力を頂きましたことに心から感謝申し上げますと共に、これから一層ご理解ご協力下さいますようお願い申し上げます。一日も早くコロナが終息する事を心から願ひばかりです。

園 長